

令和7年度 第3回かめおか霧の芸術祭実行委員会

日時 令和8年3月10日
午後3時～午後5時
場所 別館3階会議室

(顧問)

【開会の挨拶】

(委員長)

議題1「令和7年度取組状況の報告」につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

【事務局から取組状況報告】

(委員長)

ただいまの報告につきまして、委員の皆様からご質問やご意見がございましたらお願いいたします。

(委員)

城跡芸術展で新しく始められたミュージアムショップですが、15日間で14万円の売上があったということは、非常に大きな結果だと思います。なかなか芸術祭で物売って収益を上げるのは難しいのですが、今後も力を入れていただいて、プロジェクトが少しずつでも自立できるような形を作っていくっていただきたいです。それから、城跡芸術展の来場者数についてですが、過去4回の開催における来場者数の推移や、来場者の層、感想などがあれば教えてください。

(総合プロデューサー)

ミュージアムショップについては、これまでの活動の中で、作家さんの作品や作ったものをどう共有していくかということを検討してきました。今回の売上は一つの成果ですが、今後は収益の一部を実行委員会に入れ、かめおか霧の芸術祭がある程度自立可能な状況に持っていきけるような仕組みを作りたいと考えています。また、作家さんだけでなく、市民の方がワークショップで作ったものを販売し、そこから「市民芸術家」が生まれるような、循環するシステムを構築したいと思っています。

来場者数につきましては、当初、ギャラリーで開催していた頃は約2,000人ほどでしたが、現在は7,000人から8,000人規模まで増えてきております。認知度が上がったこともありますが、京都市内からの来場者が非常に多いこと、それからボランティアとして参加してくださっている方々が、自分の家族や知人を連れてきてくださっていることが非常に大きな要因だと感じています。市民が参加することで、さらに多くの人を呼び込む形になってきております。

(委員)

ミュージアムショップには非常に可能性がありますね。ボランティアの方が「自分もアーティストなんだ」という気持ちで作品を紹介することで、境界のない素晴らしい展覧会になることを期待しています。

(委員長)

ありがとうございます。他にご意見がございませんでしょうか。それでは、議題2「令和8年度の事業計画(案)および収支予算(案)」について、事務局および各担当アーティストから説明をお願いします。

【各担当アーティスト及び事務局から事業計画（案）及び収支予算（案）を説明】

（委員長）

ただいま説明いただいた内容について、ご意見、ご質問がございましたらお願いいたします。

（委員）

農小屋プロジェクトについてですが、作っている過程を公開してはどうでしょうか。完成したものを見るのもいいですが、どういう工夫をして作られているのか、その「思考の跡」が見える制作風景を市民や子供たちに見せる機会を作っていただきたいです。

（アーティスト）

おっしゃる通りです。安全面に配慮しながら、ワークショップ形式で制作に参加してもらったり、見学できる日を設けたりすることで、制作のプロセスを共有していきたいと考えています。

（顧問）

予算については、非常に厳しい状況の中で縮減をお願いした経緯もございます。しかし、放置竹林や稲藁といった、これまで捨てられていたような素材をアートとして蘇らせ、農地に新しい価値を与えるという取り組みは、非常に亀岡らしく、私も大変楽しみにしております。

（委員）

緑化フェアのメイン会場と、城跡芸術展の会場が少し離れています。お客様に両方の会場を回ってもらうために、何か共通のキーワードやサブテーマを設けるなど、一体感を持たせる工夫が必要ではないでしょうか。

（総合プロデューサー）

両会場を繋ぐためのガイドツアーや、アーティストによるパフォーマンスを交えたイベントなどを検討しております。「かめおか霧の芸術祭があるからこそ、この緑化フェアが特別なものになっているんだ」というメッセージを伝えていきたいです。

（委員）

丹波亀山城跡にある花明山植物園も、緑化フェアの推奨スポットになっております。最近は四季折々の植物を目当てに来られる方が増えており、特に海外の植物園との交流も進めております。城跡芸術展のアート作品と、植物園の緑が融合することで、素晴らしい体験を届けることができると確信しております。

（委員）

これだけの大きな予算を投じるわけですから、一回きりのお祭りで終わらせてはいけません。10年後、20年後に何が残るのか。設置した農小屋の維持管理はどうするのか、また、関わった市民の方々がその後も活動を続けていけるような「レガシー」をどう考えておられますか。

（総合プロデューサー）

作品そのものを残すこと以上に、それを支える「人の仕組み」を残したいと考えています。例えば、作品を維持管理するためのボランティアスタッフを育成し、研修制度を整えることで、イベントが終わった後も自分たちの街の公園を自分たちで守っていけるような、そうした市民のコミュニティをレガシーとして残していきたいです。

（顧問）

会場となる農地は、将来的に「オーガニック・ビレッジパーク（有機農業公園）」として整備していきます。そこではプロの農家さんだけでなく、移住してきた方や市民の方が農業を楽しみ、市外からも観光客が訪れるような場所になります。今回設置する農小屋は、その公園の

大切な施設として、また風景の一部として、末永く活用していく計画です。

(委員)

緑化フェアをきっかけに、初めて亀岡に来る方も多はずです。そうした方に「かめおか霧の芸術祭」のファンになってもらうための工夫をお願いします。また、今年度もミュージアムショップを継続されるのであれば、ぜひ緑化フェア会場でも、亀岡の素敵なものを買って帰れるような場所を作っていただきたいです。

(アーティスト)

ミュージアムショップは継続する方向で調整しております。アーティストの作品や地域の特産品を手にとっていただけるような、魅力的な販売スペースを検討してまいります。

(総合プロデューサー)

「アート・スプラウト」の公募には全国から非常に高い関心が寄せられており、視察にも多くの方が来られました。かめおか霧の芸術祭が掲げている「日常の延長にあるアート」という考え方が、全国の若い作家さんに響いています。彼らの瑞々しい感性が、緑化フェアの会場を彩ってくれるはずです。

(委員)

高校生たちに芸術祭の案内をすると、「自分たちにも何かできるかも」と興味を持ってくれる生徒がいます。今後も学校教育の場でもしっかり周知していきたいと思えます。

(委員)

非常に多岐にわたる素晴らしい活動だと感じました。私たちのネットワークでも、協力できることがあればぜひ関わらせていただきたいです。

(委員)

芸術祭の内容が非常に豊富なので、逆に言うと、一般の方には少し難しく感じられるかもしれません。「霧芸とは、一言で言うとこれです」という、誰にでも伝わるシンプルなキャッチフレーズや言語化があれば、さらに広がりが出るのではないのでしょうか。

(委員)

広報の仕方が非常に重要だと思います。また、会場に来てすぐに帰ってしまうのではなく、ゆっくり滞在してもらうための仕掛けや、広い会場を移動するための電動三輪車（トゥクトゥク）のような、乗ること自体が楽しくなるような移動手段の検討も面白いのではないのでしょうか。

(委員)

皆さんの熱意ある取り組みを改めて実感いたしました。PRについても、ただ発信するだけでなく、どの層にどう響いているのかをしっかりと分析し、PDCAサイクルを回しながら、より効果的な戦略を立てていく段階に来ていると感じます。

(委員長)

活発なご意見をありがとうございました。それでは、議題2の令和8年度事業計画（案）および収支予算（案）につきまして、承認いただける方は拍手をお願いいたします。

【拍手】

(委員長)

ありがとうございます。異議なしと認め、承認されました。それでは、本日予定しておりました議題は以上となります。

(司会)

最後に、総合プロデューサーから閉会のご挨拶をお願いします。

(総合プロデューサー)

本日はありがとうございました。緑化フェアという大きな予算を伴う事業を担うことになり、責任の重さを感じております。しかし、私たちは単に派手なことをするのではなく、亀岡の自然や風土を活かした、亀岡にしかできない芸術を全国に示したいと考えています。

多額の予算を使うわけですから、これを一回で消費してしまうのではなく、関わってくれた人々の「意欲」や「気持ち」をどう残すか。それが次世代に繋がるようなプログラムを構築していくことが、私たちの使命だと思っております。

私がこの芸術祭に関わり始めて、来年でちょうど10年になります。当時学生だったメンバーが今は立派なスタッフになり、結婚して家庭を持つなど、この10年で着実な人の繋がりが育ってきました。亀岡に移住した人だけでなく、市外から通いで関わってくれる「通い」のスタッフも非常に大きな力になっています。

これからも、この自由で風通しのいい環境を大切にしながら、全体を融合させて、霧のように亀岡の魂を世界へ広げていきたいと考えております。どうぞこれからもよろしく願いいたします。

(司会)

ありがとうございました。次回の会議、令和8年度第1回かめおか霧の芸術祭実行委員会総会は令和8年7月17日(金)午後3時から、場所は市民ホールでの開催を予定しております。

以上をもちまして、本日のかめおか霧の芸術祭実行委員会総会を終了いたします。お忘れ物のないようお気をつけてお帰りください。ありがとうございました。